

地域がん診療連携拠点病院（特例型）・地域医療支援病院＜川崎市立井田病院からのお知らせ＞

い だ や ま 第89号 井田山

基本理念「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、
市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」

年頭のご挨拶 病院長 伊藤 大輔



明けましておめでとうございます。
旧年中は格別のご厚情を賜わり、心より感謝申し上げます。

昨年令和7年は前年から続くコメの価格高騰や全国のクマ被害など心配な報道が見られる一方で55年ぶりの大阪・関西万博の成功や日本初の女性総理大臣の登場など明るい話題もありました。

船出したばかりの高市総理も内憂外患の中で難しい舵取りが求められておりますが、医療・介護の問題も深刻です。

物価上昇と止まらない少子高齢化の中で医療機関・介護施設の経営状況は極めて厳しい状況が続いており井田病院も例外ではありません。当院では健診から診断・治療・緩和ケア・在宅医療までシームレスな医療提供体制を整え、地域に密着した温かい医療の提供を心掛けておりますが、人件費高騰と医療材料費高騰の中、働き方改革も着実に進めながら懸命な努力によって診療稼働額を上昇させても更に支出が上回る、所謂「増収減益」の状態に陥っております。

次年度は長期間ほぼ凍結されていた診療報酬が僅かにプラス改定されたとはいえ、今年もまた多くの医療機関・介護施設のニュースが世間を騒がせることでしょう。その中でどうやって皆様の市立病院を守り存続させてしていくか、その重大な課題と使命に思いをはせると身の竦む思いがいたします。病院局、井田病院、川崎病院、多摩病院が丸となって経営改善に努め、この難局を乗り越えるべく対処して参りますが、地域住民・地域医療機関の皆様の御協力なくして市立病院の存続はありません。

皆様の声に耳を傾けながら一步一步進んでまいりたいと考えておりますのでよろしくご支援のほどお願い申し上げます。



世界糖尿病デー院内講演会を実施しました

当院では糖尿病患者の診療内容の向上を目指して2021年に糖尿病サポートチーム委員会が前身の部会を格上げした形で活動しております。年間活動として患者会、医療従事者への勉強会などを行っておりますが、当会年間最大の行事として毎年11月の世界糖尿病デーの週の木曜日の午後に講演会を開催しております。

糖尿病の治療薬となるインスリンを発明したフレデリック・バンティング博士の誕生日に因んで、2006年国際連合により世界糖尿病デー（11月14日）が制定され、世界中の患者さんに糖尿病への啓蒙を図る日として毎年日本各地でも催しが行われておりますが、当院でもその時期に糖尿病という疾患を様々な形で知ってもらうために講演会を開催しております。講演会のテーマとしては糖尿病という疾患のこと、診療に関わる運動、食事療法の話題、診療に関連する新しい治療薬やデバイス（血糖測定にかかわる機器や皮下組織で持続的にブドウ糖（グルコース）を測定する機器（CGM））やインスリンポンプ）の話題を取り上げております。

当院に通院しているかどうかに関係なく皆様に参加が可能な講演会ですので、関心のある方はお越しをお待ちしております。



（文責：糖尿病内科部長 金澤）

冬に流行する感染症から 身を守りましょう！

冬は空気が乾燥し、インフルエンザや新型コロナウイルス、ノロウイルスなどが活発になる季節です。冬を元気に過ごすための感染予防についてご紹介します。



1.『適湿』で過ごしましょう。

湿度の重要性が改めて注目されています。湿度が40%を下回るとウイルスが浮遊しやすくなるため、加湿器や濡れタオルを活用し、湿度40%以上に保ちましょう。喉の粘膜が潤うことで、ウイルスの侵入を防ぐバリア機能も維持されます。

2.「換気」：効率的な空気の入れ替えをしましょう。

寒さが厳しいこの時期は、短時間の「対角線換気」が有効です。室内の対角線上にある窓を2か所、数センチ開けるだけでも空気の流れが生まれます。厚生労働省のガイドラインでも、こまめな換気が推奨されています。

3.「腸内環境」を整えましょう。

外からのウイルス侵入を防ぐと同時に、自分自身の免疫力を高めることも重要です。発酵食品（納豆、味噌、ヨーグルト）や食物繊維を意識して摂り、腸内環境を整えましょう。体温が1度下がると免疫力が大幅に低下するため、入浴や温かい飲み物で「おなかを冷やさない」工夫も大切です。

（文責：感染対策室）

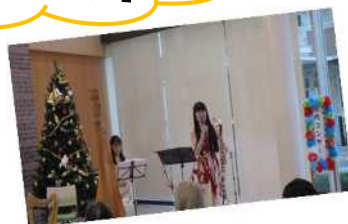


院内コンサート

ハープと クラリネット

12月9日に井田病院の1階フロアで、「ハープとクラリネットの院内コンサート」が開催されました。曲目は、クラリネット・ポルカやカンツォネッタ・コーヒールンバに加え、クリスマスシーズンでもあることからクリスマスソング・メドレーの演奏も披露していただきました。

車椅子やベッドで参加した患者さんやご家族もあり、リズムにのせて手拍子をするなど楽しい時間を過ごせました。ハープとクラリネットに加え、シャランやバスクラリネットなど珍しい楽器の演奏もありました。演奏者が足にフィンガーシンバルを装着し、演奏するパフォーマンスも披露され、患者さんやご家族にとって至福のひとときになりました。



(文責：看護部 小倉)

チームアイ勉強会「食養科を知ろう！」

12月10日(水)に院内ブランディングチーム「チームアイ」主催の勉強会を行いました。「食養科を知ろう！」と題して、食養科の業務や病院食について、職種を超えて学びました。今回の勉強会の目玉は「病院食の試食」、コロナ禍を経て、2019年以来実に6年ぶりに試食を含めた勉強会となりました。

参加者からは「患者さんの食事介助をする際の参考になった。」「実際に味や食感などを知ることでケアの幅が広がると思う。」「想像よりおいしかった。」などの声がありました。

勉強会を通してそれぞれの職種の「強み」を知ることが、多職種連携にも繋がり、やがて当院の「強み」として、地域の皆様に信頼して、安心してかけられる病院づくりに貢献していきたいと考えます。今後も定期的に勉強会を開催していきたいと思います。

【チームアイとは】

井田病院で働く職員自らが井田病院への愛着を持ち、誇りを持って働くことができる病院とするため、当院が持つ「強み」を発見し、「院内そして院外に発信していく」ことを目的として活動しているチームです。



(文責：医療技術部食養科 亀山)

屋外美化活動を実施しました

12月3日(水)に「市民交流・サービス向上委員会」の院内環境改善の一環として、例年行われている屋外美化活動を行いました。

天気には恵まれましたが、冷たい風が吹く中、多くの職員や委託業者の方にお集まりいただきました。また、伊藤病院長、篠山副院長、田中事務局長の三役の方も率先してご参加くださいました。

30分程度の時間でしたが、病院前の歩道やバスロータリー等にある落ち葉やごみなどでいっぱいになったごみ袋がたくさん集まりました。

井田病院の周囲には樹木がたくさんあります。その樹木から落ちた葉の清掃を職員が行うことで少しでも外観がよくなるように、今後も行っていきたいと思っています。

(文責：庶務課 濱田)



令和7年度ビックレスキューかながわに参加しました！

井田病院DMATは令和7年11月9日に三浦市を中心に行われた令和7年度ビックレスキューかながわに参加してきました。（参加メンバーは医師杉真恵、看護師濱口大之進、中川晃一、業務調整員川村良治の4名）ビックレスキューかながわは神奈川県と三浦市が医療関係機関や防災関係機関などと協力して実施する、医療救護活動を主体とした実践的な総合防災訓練であり県内のDMATも参加して毎年行われています。ただ、今回は例年と異なり病院等の医療機関だけではなく保健福祉活動における関係機関の連携強化と各機関の役割の確認、各支援チームの派遣体制及び手順の確認を目的として特別養護老人ホームでの支援活動が計画されました。井田病院DMATは藤沢市民病院DMATとともに特別養護老人ホームはまゆうでの訓練を行いました。

雨の降る早朝に救急車に資機材を積み込み病院を出発。一路三浦半島の先端を目指しました。施設には施設長をはじめとした職員の方々と地域の協力関係機関の方、コントローラーを務めた横浜市立大学附属市民総合医療センターDMATと多くの方が集まってきていました。訓練はまず、施設支援の必要性や施設の特異性について全員で講義を受け、その後、初動対応及び発災時の現状分析、現状の課題を抽出しながら被災施設でのサービス提供を継続するための検討を行いました。施設職員と協力して利用者一覧を作成し、利用者の状態を確認し、優先度の高い2名について三浦市立病院へ入院調整を行い救急車で搬送（架空搬送）を実施する事が出来ました。

これまでの訓練ではDMATは医療、施設関係は福祉が中心となり別々で行われてきましたが、実災害の経験を経て施設の支援もDMATの活動に重要であると考えられています。

今回ビックレスキュー初の試みとして福祉施設支援という形式での訓練に参加できたことはとても貴重な経験でした。今後の活動に役立てていきたいと思います。

（文責：DMAT部会 川村）



井田病院災害医療訓練を実施しました

令和7年11月29日（土）に巨大地震を想定した実働形式で災害医療訓練を実施しました。当院は、災害拠点病院に指定されています。本訓練は、地域の災害拠点病院として大規模災害に備え、職員の一人ひとりの災害対応能力を高め、多職種連携による迅速かつ的確な情報共有や組織体制を確立することを目的に行いました。

今年度の災害医療訓練では、訓練の前半に、トリアージ訓練を重点的に取り組みました。大規模災害発生時、当院には歩けるような軽症の方から、一分一秒を争う重症な患者さんまで、一度に同時に来院すると想定されます。そのため、災害発生時には正面玄関においてトリアージを実施します。トリアージとは、災害時に限られた資源のなかで、最大多数の傷病者に最善を尽くすために、傷病者の緊急度と重症度を把握し、治療や搬送を行う優先順位を決めることです。このトリアージ訓練を通し、医師や看護師をはじめとした医療スタッフだけでなく、事務職員も共に連携し、限られた医療資源の中で「誰を、どの順で、どう支援するか」を実践的に確認することができました。訓練の後半は、多数の傷病者を受け入れるためには病院全体としてどのように動くべきかという訓練を行いました。具体的には、重傷者の診療について、入院の受け入れについて、当院での処置が困難な方はどのような手順を踏んで高度医療機関に搬送するか等のシミュレーションを行いました。

今回、得られた成果および課題を今後の災害対応体制の強化につなげ、地域の皆さまに安心してかけられる病院づくりに引き続き取り組んでまいります。

（文責：DMAT部会 濱口）

